

# マリレ情報よろず屋

平成27年8月発行第35号  
第二管区海上保安本部  
マリレジャー安全推進室

## 平成27年6月 船舶事故 機関故障1件、運航阻害1件

### 事故事例（機関故障/女川港沖）

小型船舶A丸は、女川港沖を航行中、航海計器が作動しなくなったことから、機関停止して機器の点検を行ったところ、バッテリーの電圧が下がり、過放電状態となっていました。その後、機関を始動できなくなり、海上保安庁に救助を要請しました。



救助要請後、巡視艇に曳航される小型船舶

出港前にはバッテリーの点検を行きましょう。

電解液の量確認！

電解液の比重確認！

ターミナル・接続端子のゆるみ、汚れ確認！



### 原因と対策

通常はバッテリー自体の劣化が原因であることが多いのですが、本事例は、発電機の不具合が原因でした。発電機の点検を行うことは簡単ではありませんが、バッテリーの点検は容易に行うことができます。取扱い説明書に従い、液面・比重の確認、ターミナル部のゆるみ・汚れ等について、定期的に点検を行きましょう。

## 海の安全情報 船舶用、自動車用バッテリーの違いについて

小型船舶に、自動車用のバッテリーを使用している方が見受けられます。船舶に使用されているバッテリーは、ディープサイクルバッテリーというタイプで、充電～放電を繰り返し使用できる構造になっています。自動車用のバッテリーは、一度バッテリーあがりを起こしてしまうと、性能が著しく低下してしまうため、放電～充電を繰り返しながら使用することには向いていません。船舶用バッテリーは、自動車用のものより高価ですが、それぞれの特徴を把握して使用することをオススメします。

### 船舶用バッテリーの特徴

放電しても性能が劣化しにくい  
比較的価格が高い

### 自動車用バッテリーの特徴

一度放電すると性能が著しく劣化する場合がある  
価格が安い



用途に応じたバッテリーを使用しよう！

## 事事故事例（海中転落/八戸港内）

事故者Bは、岸壁で釣りを楽しんでいましたが、釣竿先端部に絡んだ釣り糸を解こうと岸壁の車止めに足をかけ、竿を振った際、バランスを崩して海中に転落してしまいました。救命胴衣を着用しておらず危険な状態でしたが、幸い付近にいた人がすぐに119番通報し、消防職員に救助され、命に別状はありませんでした。

**海中転落に備え、ライフジャケットは必ず着用しましょう！**

**また、岸壁の梯子や階段の有無、場所を確認しておきましょう！**



岸壁上は安全そうに見えますが、はしごも無いため、海に落ちれば戻るのは容易ではありません。



## ▼原因と対策

テトラポットや磯場に比べると岸壁上は足場も良く安全に感じられますが、実際は車止め、ビット、係留索などの障害物も多く存在し、他のことに気をとられていると、つまづき海中に転落することもあります。周囲の状況を確認し、転落することがないように、安全に釣りを楽しみましょう。

## ワンポイント講座 浮くっちゃボトルを作ってみよう

海中転落者を見かけた時、自分が助けにいくのは危険です。何か浮くものを投げるなどして救助しましょう。

身の回りにある物を利用して作れる簡易安全ツールをご紹介します。今回は、海に転落した人を救助するための応急的な救助用具の代用品「浮くっちゃボトル」。ペットボトルと細索、砂、塗料スプレー等があれば作れますので、トライしてみましょう。

詳しい作り方は、若松海上保安部のHPへ！こちらからどうぞ



浮くっちゃボトルの完成品



マリレ情報よろず屋  
～バックナンバーはこちら～

MICSスマートフォン用サイト  
(沿岸域情報提供システム)

